

2016 年度活動報告 CJP 授業： インディペンデントスタディ 会話・聴解 2

郷矢 明美（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本クラスの対象は秋学期にレベル1か2の学生であったが、実際に受講したのは秋学期レベル2の学生10名であった。授業は1週間に3回で、クラス目標は、初級後半の表現を使って、日常会話ができるようになることと、身の回りのことについて、事実や感想をまとめた長さで表現できるようになることである。テキストは『みんなの日本語初級Ⅱ』の本冊と翻訳・文法解説を使用し、36課から50課を扱った。聴解用としては『毎日の聞き取り 初級下』から抜粋して用いた。

2. 授業内容

初日に、話す・聞くの2つの技能について、学生各々が今学期の「学習計画」を立てた。授業は毎回、スピーチ、聴解練習、その後自由活動という流れで行われた。スピーチは様々なテーマで行ったが、前半1分間、後半2分間の長さとした。スピーチの後、『毎日の聞き取り 初級下』の『みんなの日本語Ⅱ』の36課から50課までの提出文型が含まれている課を聞いた。質問のあった語彙、表現については適宜説明した。その後は学生が各自の学習計画に従って会話練習や聴解練習など個別学習を進め、毎回授業の終わりに「振り返りシート」で、計画が達成できたかどうか振り返りをした。

課題としては、各自のスピーチや会話練習したものを録音し、それをスクリプトに書き起こし、間違った箇所を自己修正して提出した。また初日と最終日には、同じテーマで3分間スピーチを行い、両方を比較して達成度を確認した。

3. 成果と今後の課題

アンケート結果によると、10名全員が授業に「満足」または「まあまあ満足」と回答し、満足度は高かった。その理由は、「会話聴解力が向上した」（7名）、「少し向上した」（3名）との回答が示すように、学生自身が話すことや聞くことに自信がついたことによるものと思われる。特に、初日と最終日のスピーチを比較すると、進歩は全ての学生に見られ、成果はあったと考える。ただ聴解については「良かった」（5名）に対して「難しい」（3名）「長い」（1名）との回答もあり、評価が分かれた。内容の難度によってクラス全体で聞くものと個人学習するものを適宜組み合わせるほうが、時間効率の上でも学習効果の上でも良かったのではないかと考える。